

児童通所支援事業所 あいらいん
児童発達支援 事業所自己評価表(公表)

公表：令和4年2月25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、 課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		基本的な活動では適切と考えられるが、活動内容によっては、狭く感じることがある	活動内容によっては、狭く感じる場面も見られているため、場所の確保を検討していきます。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		曜日による	定員10名に対して、平均4～5名の職員を配置しているため、適切であると考えられるが、職員の急な休みや児童の特性に応じて対応を行って行く為にも、新たな職員確保も検討していきます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		脱衣所の扉の修理 事務所、トイレの上部にカギを付けた方がいいのではないか	脱衣所の扉の修理及び事務所の扉上部に鍵の設置は実施済みです。 バリアフリー化などを行っているが、児童が外側からカギを開けてしまうこともあるため、児童が届かない場所への鍵の設置を行っています。また、鍵以外に代替できるものがないか検討していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日、活動に対しての振り返り、児童1人ずつの振り返りを行っている	児童への支援や活動内容の振り返りは行うことができているが、その他の業務に対して、目標設定や振り返りがあまりできていなかったため、もっと全職員での話し合いを行っています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、第三者による外部評価は行っていないため、今後、検討を行い、実施することができるように努めます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		限られた人が多い	研修・セミナー等については、管理者より職員全体に対して、参加希望者を募り参加できるように調整しています。 事業所として必須の研修は、管理者から各職員へ伝え、参加することとしています。

適切な支援の提供

⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		計画を立てたうえで、職員間で再度足りないものはないか確認している	もっとより良い計画にしていけることができるように努めます。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		早目に話し合い、計画を立てることで、準備などの余裕ができるので早めに話し合っていく方がいい	1~2ヶ月前から活動テーマを話し合い、プログラムの詳細はその後、職員間で話を行っています。もっと早めに話し合いを行い、事前準備の時間も決めていけるようにしていこうと考えています。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		固定しているようにも感じるが、難易度を変えるなど、繰り返していくものも有効だと思う	固定化しないように話し合いを行っているが、活動によってはあえて固定化しつつ、その後のアプローチを段階づけて進めていくものも必要と考えています。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		掲示したプログラムで分担を確認している	申し送り時に活動内容の説明を行い、必要に応じて分担も伝えるようにしています。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	○			
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子ども一人ひとりの長期的な目標をしっかりと確認して、ステップアップさせていくことが必要	個別の振り返りや活動の振り返りを行い、支援の改善に繋がっています。個別支援も含めて振り返りを行うことができるようにしていけるように努めます。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			

関係機関や保護者との連携

⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
㉑	母子保健や子供・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子供の主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている	○		保護者を通して行っている	主治医とは直接の連携をとることはほとんどないが、保護者を通じて必要な情報共有を図っています。
㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
㉗	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	多くの子ども達は、保育所等に通っているため、交流の必要があるのか不明	幼・保育園やこども園に併行通園している児童が多く、事業所では交流や活動の機会はありません。保護者からの要望などを踏まえたうえで、検討を行いたいと考えています。
㉘	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		管理者が必要に応じて参加している	管理者や児童発達支援管理責任者が児童発達支援のグループ会議等に参加しています。
㉙	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			

	③① 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	システムを通して相談があれば対応している	明確な家族支援プログラムは実施できていないが、今後、より良い支援ができるように取り組んでいきます。	
保護者への説明責任等	③② 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○			
	③③ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		○			
	③④ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○			
	③⑤ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	○	今年コロナにより開催されていない	新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は保護者会等を実施することができなかった。来年度以降、どのような形であれば実施可能か検討し、実施していきたいと考えています。
	③⑥ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		○	○	即日又は後日行っている	今後も、申入れがあった時にできるだけ早く対応ができるように努めていきます。
	③⑦ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○	○	システムにより、写真などを添付して、より分かりやすく伝えている(利用日毎)	『成長療育支援システムHUG』を導入し、活動風景など、お子さまの様子が分かりやすいように、写真等も添付してお伝えしています。また、必要な連絡も電話以外でもできるようにしているため、連絡体制も整ってきていると考えております。
	③⑧ 個人情報の取扱いに十分注意しているか		○			
	③⑨ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○			
	④⑩ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	機会がない 今年には特にコロナによりできない	新型コロナウイルス感染症の影響で地域の方々を招待することができない。今後も検討を重ね、地域住民の方々との交流が行えるように努めます。

非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を行っている	○			
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	④3	事前に、予防接種やてんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○			
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④6	虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			